



【沖縄】飲酒運転をなくす取り組みを広げようと、飲酒運転根絶県民大会(主催・県・県議会)が22日、沖縄市民会館大ホールで開かれた。社会人や中高生ら約1500人が参加した。飲酒運転をなくすため、県内では



約1500人が集まった大会で「酒を飲んだ人には絶対、車を運転させない」などと宣言する代表者ら。22日午後、沖縄市民会館大ホール

飲酒運転根絶に一丸 沖縄市民大会

2009年10月に県飲酒運転根絶条例が施行された。しかし、人身事故のうち飲酒が絡んだ事故の占める割合を見ると、沖縄県は昨年まで22年連続で全国ワースト。12年は9月末現在、飲酒が絡んだ人身事故が83件発生しており、うち死亡事故は5件あった。

村田隆県警本部長は「飲酒運転で事故を起こした場合、賠償金の支払額が大きいほか、重い刑罰を科せられ、家族を路頭に迷わす」と話し「飲酒運転のない安全安心な沖縄県を実現するため、県民と一丸となつて取り組み」とあいさつした。

県民を代表して、中学生から高齢者まで5人が舞台上がり「酒を飲んだ人には絶対、車を運転させない」「酒を飲んだ人が運転する車には絶対乗らない」などと宣言した。